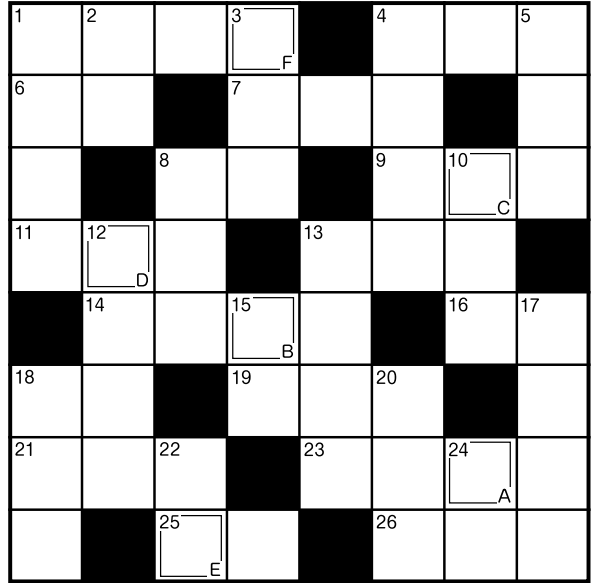


ヨコのヒント

- 1 村上春樹の短編小説を映画化した濱口竜介監督の『○○○○・マイ・カー』が今年のアカデミー賞の国際長編映画賞を受賞しました。
- 4 空が落ちてくるなんてことはありません。そんなことを心配するのは、まさに○○○です。
- 6 滑らせたり、とがらせたり、濁したりする体の一部は？
- 7 ○○○○応変。「その場の様子や状況に合わせて良いやり方をする」という意味の四字熟語です。
- 8 ちょうど良いとき。チャンス。漢字を間違えないでください。
- 9 神様を祭ってある建物。
- 11 1932年の五・一五事件では、内閣総理大臣・犬養○○○が暗殺されました。
- 13 焼き物を作るときに使う円形の台。これを回しながら、形を作っていきます。
- 14 「容易」の反対語は？
- 16 ○○抜ける、○○逃れる、○○放つ、○○よどむ。○○に共通して入ることばは？
- 18 「○○形」とは、四角形のすべての辺の長さが等しいものです。
- 19 日本人の海外渡航や帰国を禁止し、外国船の入港を制限した、江戸幕府の政策。
- 21 ナスの仲間。実は熟すと赤くなり、それを生で食べるほか、ジュースやケチャップにもします。
- 23 言行などが一致しないこと。「ことばとは○○○○な行動をとる」などと使います。
- 25 立ったり、鳴ったり、振るったりする体の一部は？
- 26 初めからもう一度やり直すこと。「○○○まき直し」といいます。



【答え】

A	B	C	D	E	F

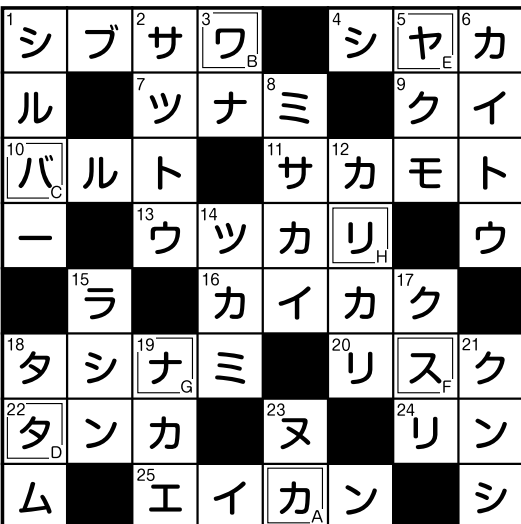
- 1 その領域内の人や物について、他国から支配を受けない国を○○○○国といいます。
- 2 朝鮮民主主義人民共和国による日本人○○問題。早期の解決が望まれます。
- 3 鉄をスズでメッキしたもの。
- 4 裁判所が訴えを取り上げないこと。「原告を○○○○するな」と使います。
- 5 ぼんやりとした、平気のなげ様子。「疲れて○○○○な目をくくする」などと使います。
- 8 「○○○○・雷・火事・親父」。世の中で恐ろしいとされてくるものを、その順に並べる「○○○○なりませぬ」。
- 10 につこりと笑う。さて、どんな歯を見せる？
- 12 人の道に外れ、正しくない様子。「○○○○な者」などと使います。
- 13 ○○○○行賞。「戦場でどんな手柄を立てたかを調べて、それに応じたほうびを与える」という意味の四字熟語です。
- 15 アメリカ航空宇宙局。英語名を略して○○○呼びます。
- 17 日本有数の農業県。県庁所在地には日本三名園の一つ、偕楽園があります。
- 18 「あじびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜を○○○○かも寝む」(柿本人麻呂)
- 20 「はたらけどはたらけど猶わが○○○業にならざりぢつと手を見る」(石川啄木)
- 22 7世紀から10世紀初めにかけて栄えた中国の王朝。
- 24 同じことを繰り返して変化がない様子。「○○○で押しつた」といいます。

タテのヒント

前月号の解答と解説

【答え】

A	B	C	D	E	F	G	H
カ	ワ	バ	タ	ヤ	ス	ナ	リ



★川端康成

川端康成は、大正・昭和時代の小説家です。『伊豆の踊子』『雪国』などの作品で知られ、1968年に、日本人として初めてノーベル文学賞を受賞。50年前の1972年4月16日に亡くなりました。

1899年に大阪で生まれた川端は、医師であった父親を1歳で、母親を2歳で、いずれも結核で亡くしました。その後、祖父の家で育てられますが、小学1年生のときに祖母を、4年生のときに姉を、そして、中学3年生のときに祖父を失い、まったくの孤児になります。その後は母の実家に引き取られ、親戚の世話になりながら、旧制第一高等学校（現在の東京大学教養学部）、東京帝国大学（現在の東京大学）文学部へと進学。そして、大学を卒業した1924年に、横光利一ら当時の新進作家たちと共に文芸誌『文藝時代』を創刊すると、斬新な文学の出現として、「新感覚派」と呼ばれました。そうしたなか1926年に発表したのが、初期の代表作『伊豆の踊子』です。その後、『禽獣』『雪国』『山の音』『古都』などを発表。1961年に文化勲章を、1968年にノーベル文学賞を受賞しました。

川端のノーベル文学賞の授賞理由について、選考するスウェーデン・アカデミーは、当時、「日本人の心の精髓を優れた感受性で表現する、その物語の巧みさ」と発表していましたが、授賞から50年たった2019年1月に公開された、当時の選考資料には、「日本文学の真の代表者として、彼に賞を与えることは正当である」と書かれています。当時、受賞者が欧米の作家に偏り過ぎているという批判にさらされていたアカデミーが、アジア、とりわけ日本の文学に目を向け、「では、誰が最も賞にふさわしいのか」と考えるなかで川端が選ばれたようです。ちなみに、1960年代には谷崎潤一郎と三島由紀夫の2人も文学賞の最終候補に残ったことがあります。

ヨコ

- 1 渋沢（しぶさわ）
- 4 シヤカ
- 7 津波（つなみ）
- 9 杭（くい）
- 10 パルト
- 11 坂本（さかもと）
- 13 うっかり
- 16 改革（かいかく）

タテ

- 1 シルバー
- 2 殺到（さつとう）
- 3 わな
- 5 八雲（やくも）
- 6 怪盗（かいどう）
- 8 見境（みさかい）
- 12 かりかり
- 14 つかみ
- 15 羅針（らしん）
- 17 葉（くすり）
- 18 立たむ（たため）
- 19 中江（なかえ）
- 21 君子（くんし）
- 23 むか